

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 141

2020/03/12/Thu

学年登校日まであと4日

日曜全休、土曜半休制始まる 1876年

日本初の運動会 1904年

アンネ・フランク15歳で殺害 1945年

元日本兵、小野田元少尉、帰国 1974年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

令和元年度(2020年度)「第39回 卒業式」終わる！

在校生・来賓不在でしたが…**厳粛に「卒業証書」授与！**

感動の涙と感謝の笑顔に包まれた卒業式！

— 命を大切にして自分の花を咲かせ夢を切り拓こう！ —



ございました。本来、在校生やご来賓と共に祝福すべき卒業式を通常のようにできなかったことに、私は申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

卒業証書授与

卒業式の正式名称は「卒業証書授与式」…式の最もメインとなるものですから、感染症予防のためとはいえ、これを簡略化することはできません。107名の卒業生一人ひとりに「おめでとう」と声を掛けながら、卒業証書を手渡すことができたことは、私にとっては何よりもうれしいことでした。喜びの笑顔満面で受け取る者、すでに涙目で潤んでいる者、緊張で動きが硬い者、じっと笑顔で私を見つめながら受け取る者…一人ひとりに個性があり、厳粛な中にも胸を熱くさせられるシーンが何度も何度もありました。

式辞①

3年間でとても成長した3年生は「学校の顔」として各分野で好成績をあげ、関東・全国大会へも出場した。成績もトップクラス、新体力テスト県優秀賞受賞と本物の文武両道の活躍だった。後輩たちも尊敬していた。三行大行事でも主役で格好いい3年生。勝っても負けても涙し一緒に懸命のパフォーマンスに感激した運動会。難曲に挑戦し最高の合唱を披露し、感動のクロージングを創りあげたひがし野祭。受験勉強中で体力低下の中でも仲間を信じて1秒でも削りだそうと懸命に走った駅伝フェス。3年生の心意気、全力に悔いないの姿は、後輩たちに永く引き継がれることと思う。



式辞② 失うと二度と戻らないかけがえのない命についてのメッセージ…合唱が得意な3年生が歌った「手紙」の歌詞『負けそうと泣きそうで消えてしまそうな僕は…問い続ければ見えてくる 荒れた青春の海は厳しいけれど…いつの時代も 悲しみを避けては通れないけれど 笑顔を見せて 今を生きていこう』や『ビリーヴ』の歌詞『あと一歩あと一歩って 出来ても出来なくても挑んでるのが自分らしく…別に特別の力があるわけじゃない 諦めないって決めただけ それを信じてんだ 僕が続ければ終わらない 未だ旅の途中…歩き続ける』を紹介し思い出させながら…思春期の自分探しの旅の途中には様々な困難なことや見えない敵や予測不能の問題にぶつかるかもしれないが、諦めずにあと一歩と考え続け行動してほしい。その一歩を踏み出すにも命がなければできない。親から授かった命は大切な宝。命があれば夢を叶えるスタートラインに立って自分が主人公のストーリーを続けられる。旅の途中でくじけそうになっても君たちには応援してくれる親や家族、仲間、先生方がいる。生涯の師たりうる本校の先生方は応援し見守っている。

式辞③ 心身とも成長された我が子を見て保護者の皆様の感慨もひとしお。君たちは大切な命を生み育み支えてくれたご両親に感謝してほしい。今日まで関わってくださった方々にも感謝してほしい。「道」の『特別な時間をありがとう。心・勇気・友・笑顔。嬉しすぎて溢れ出した涙が止まらない』という卒業合唱と君たちの感動のプレゼントに感謝！命を大切にし、自分の花を咲かせ大きな夢を切り拓こう！



送辞 在校生代表の那花衣桜里さん(2-1)が入学当時から優しく接してくれた3年生の数々のエピソードを紹介しながら感謝の気持ちを述べました。行事に燃える3年生の姿を尊敬したこと、部活動で3年生とペアを組んだ時に自分がミスしても励ましてくれたことなど、3年生への感謝の言葉が続きました。尊敬する3年生と別れるのが辛い気持ちと多くの思い出とともに、最後にはなむけの言葉で結んだ堂々とした送辞でした。



答辞 卒業生代表の松本陽大朗さん(3-2)が入学式の時の気持ちから自然教室や修学旅行など多くの思い出を語り、3年間の出来事をよみがえらせました。積み上げてきたもの全てを出し切った部活動では、技術面だけでなく人間として正しい心を学んだことや仲間と先生とで築いた汗と涙の思い出も忘れられないと…。三大型事ではクラスの枠を越えて一緒に友情を深めたこと、レベルの高さを共に追求したこと、ベストを尽くせたのは先生や親、仲間からの応援でだったことなどを、感情を込めて語り多くの涙を誘っていました。親への感謝も忘れていませんでした。親を越える！という決意もありました。そして、最後は先生方への感謝の言葉が綴られ、職員席では涙をハンカチで押さえていました。共に過ごした思いを胸に離ればなれになっても心は離れない！と締めくくり、会場を感動の渦に巻き込む素晴らしい答辞でした。

式歌「旅立ちの日に」



卒業生合唱「道」

